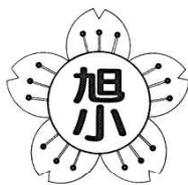


令和7年度の登校日はあと10日、ちょっと早いですが、たいへんお世話になりました。感謝でいっぱいです！



旭小ブログほぼ毎日更新中！最新情報はブログをご覧ください！

旭の子だより

～かしこく やさしく たくましい 旭の子～ No.10(2026.3.11)



旭小学校ブログをぜひご覧ください！旭小学校ブログをぜひご覧ください！

よい環境にはよい子が育つ ～物質も人も大切です～

校長 半田幸弘

旭小学校に赴任して2年が経ちます。子どもも保護者も、地域も先生もよい、素晴らしい学校と聞いて来ましたが、全くその通りでした。ただ、気になったのは学校の顔である正門付近の環境と塗装のはげた遊具の多さでした。ただ、予算がかかること、これまで施工したくてもできなかったことだと思います。

よい環境にはよい子が育つと言われます。私もそう思います。そこで、自分がいる間に正門付近の環境を整えるとともに子どもたちが遊びたくなるような遊具にしたいと考えました。手始めに正門周辺の木の剪定を始めました。時間のある時を見計らって校務員さんと一緒に枝を落とし始めました。ただ、素人仕事には限界があります。大きな木は怖くて切れません。



松の剪定は開校以来？

そこで国土緑化推進機構で行っている「緑の募金」学校環境緑化モデル事業に応募することにしました。木々の伐採や剪定、植樹のための資金を助成していただける事業です。昨年度申し込んだところ、みごと審査を通り、今年度50万円をいただけることになりました。また、落ち葉で迷惑をおかけしている近所の方にその話をしたところ、体育館西側の大木を切るための10万円を上乘せしていただきました。本当にありがたい方がいるものです。それを活用して正門周辺の樹木の伐採、剪定、植樹を行いました。木を切っていると「校長先生が自然破壊している」と言われたこともあります。人が植えた樹木は人が管理し続けなければよい状態を保てません。それを子どもたちが知るよい機会にもなったと思います。

また、クビアカツヤカミキリにやられて伐採したサクラの代わりを正門脇に植樹しました。今後の虫害を考えると別の樹木がよいとも思いましたが、本校の校章であるサクラが正門付近にあってほしいと考え、決めました。



見通しよく 明るくなった正門付近

正門と遊具の塗り替えは市会計の修繕費に加え、PTAの環境整備費を使わせていただきました。これでさらに学校の顔である正門付近と低学年の子がよく遊ぶ前庭がとても明るくなりました。やり残しているのは、トイレなどの校舎内の水回りです。これだけは数十万円の単位でできるものではありません。数千万円の予算が必要です。以前お伝えした通り、令和9年度の大規模改修を待つしかありません。

ただ、学校環境を構成するものは物質的なものだけではありません。忘れてはいけない



ローソンのレジにある募金箱、これが「緑の募金」になります



本校校章であるサクラの植樹

ただ、学校環境を構成するものは物質的なものだけではありません。忘れてはいけない

おめでとうございます！

2026年1月3日、木暮先生に男の子誕生です！

51cm4,072gのビックベイビーだそうです。

健やかな成長を願っています。



雪景色の旭小

群馬県南部ではめったに雪が降ることはありません。すなわち、学校の雪景色を撮影する機会はそう多くはありません。2月8日、久々の降雪となりました。足跡のない雪景色の旭小を撮影しようと



朝8時頃学校に来ました。途中交通量も少なく、朝から旭小に来る人もいないと思いきや、すでに正門が開けられ、雪面にはたくさんの轍がありました。



そうです、衆議院議員選挙の日だったのです。手つかずの雪の正門付近を楽しみにしていたのですが仕方ありません。見ると前庭と南門の方は足跡一つありません。やや降雪が少なめでしたが、純白の旭小が撮れました！

感謝あふれる3学期、うれしい話いろいろ

<その1>明治安田生命からサッカーボールの寄贈がありました。Jリーグマーク入りの公式球です。大切に使っていききたいと思います。

<その2>地元の(株)魁工業より朝日写真ニュースパネルセット一式を1年間寄贈いただけることとなりました。子どもたちの視野が広がります！

<その3>R8年度新一年生保護者のPTA入会が現時点で8割を超えています。旭の子のためにありがとうございます！

<その4>保護者からの話「秋田にすんでいる祖父母も旭小ブログを見ています、孫の学校の様子がわかってうれしいそうです！」遠く秋田でも見守ってもらっていることに感謝です！

<その5>給食員の方からの話。階段で高学年の子とすれ違ったとき、「誰ですか？」と聞かれ「給食のおばさんだよ」と言ったら「いつもありがとうございます！」と言われうれしかった。

<その6>保護者からの話「登校時に5年生女子3名が、荷物が重い一年生を助けていて、とてもよい光景だった。」やさしい旭の子がたくさんいてうれしいです！

<その7>朝、保護者からの話「あいさつしなかつたり道で広がっていたりしたら、地域のうるさいおばさんになってどんどん声をかけるようにしています。」今こそ、うるさい大人が必要です！



旭小アカデミア計画第5弾

修復職人による「日本文化を知ろう～伝統文化を守る世界～」

本校保護者である植松今日子さんは日光東照宮や鎌倉の鶴岡八幡宮の修復に携わるなど、日本の伝統建築を守る修復職人です。この度、小学校を卒業しより広い世界に飛び立つ6年生に日本の素晴らしい文化財とそれを守る職業があることを知ってもらうため卒業記念授業をお願いしました。千年以上前から受け継がれる建築物や日用品に隠された様々な技法や、漆(うるし)、金箔などが多用されていることに子どもたちは驚いた様子でした。



<半田の独り言～学級閉鎖は突然に！～>

「校長先生、どうしますか？」教職員から回答を迫られる場面が多々ある。中でも重要なのが、夏は猛暑日のプール開催と休み時間の外遊び、秋は小雨時の運動会開催、冬はインフルエンザ等の感染症拡大による学級閉鎖。1月末、突然に現れたコロナとインフルエンザの感染拡大、今回は児童だけでなく、教職員も多数罹患した。まさに学級閉鎖は突然に！の決断である。今回は授業参観もあり悩みは深まった。学級閉鎖の基準は学級の2割程が罹患した場合。ただ、増えつつある2割と減少しつつある2割では意味が違う。それに発熱はあるがインフルエンザが陰性のこともある。最後は教育委員会との情報共有、学校医との相談で校長が決断することとなる。学級閉鎖はしたくない。なぜならご家庭に大きな負担をかけるから。私の子が小学生の頃、学級閉鎖が起こると前橋にいる義母が数日間来てくれた。どうにもならず子どもだけでいさせたこともある。早帰りも避けたい。突然に子どもの帰宅を知らされて、困ったことが何度もある。ただ学級閉鎖には大切な目的がある。児童の健康を守るため、そして児童の背後にいる家族等を守るため。きっと児童一人にたくさんの家族等がいる。その中には感染することで命に関わるような方もいるかもしれない。実際に「息子の学級は閉鎖ではないけれど、家に乳児がいるので自主的に休ませます」という保護者がいた。共感である。大正解のないことが学校には多い。でも命に関わる誤答だけは絶対にしないと決めている。